

梅雨の大雨に注意しよう

あなたの生命・財産を守るのは、
あなた自身です

もうすぐ梅雨。この時期は、長雨や集中豪雨が起きやすく、水害や土砂災害の危険性が高くなります。

最近、問題となっているのが1時間に60mm以上の大雨が集中して降る、ゲリラ豪雨。昨年7月の集中豪雨による被害は、まだ、記憶に新しい出来事です。

大雨に備え、気象情報に注意することはもちろん、被害を最小限にとどめるために、家庭や地域での対策が必要です。

梅雨の大雨に対応するため、消防団が「水防訓練」を実施。木流し工法など濁流をコントロールする技法などを習得しました



情報はつかみましよう。

選ぶ。

らは、災害時はもちろん避難するときにも役立ちます。

【常備品】食料（缶詰、インスタント食品など2・3食分）、

水筒、衣料品（下着など）、救急箱、ラジオ、懐中電灯、電池、

ビニール袋、現金、貴重品（印鑑など）、毛布、タオル、せっ

けん、ライターなど

●そのほかの対策

地域で自主防災組織をつくりましよう。特に、土砂崩れなどが起こりやすい地域は、いつでも避難できる準備態勢が必要です。

●早めの避難行動

集中豪雨が予想されるときや水害発生危険が迫ったときは、慌てず、次の行動をとってください。

●気象情報をキャッチ

気象は刻々と変化するため、気象台から発表される最新

情報をつかみましよう。

全国的な天候変化と地域的な気象の特徴を総合的に判断し、危ないと思ったら早めの避難が肝心です。

●地域で協力して避難

市長から、避難勧告や指示があった場合、また、危険と思われる場合は、地域住民が協力し合いながら自主的に避難することが重要。

特にお年寄りや子ども、体が不自由な人がある家庭では、早めの避難や近所の協力などの配慮が必要です。

●避難する前の注意

①電気やガスなどの火の始末をする。
②必要最小限の携行品を準備する。
③服装は軽装、帽子などをかぶり露出を少なくする。

●避難するときの注意

①遠回りでも安全な経路を

※がけ下や壊れそうな塀ぎわ、川べりなどはできるだけ避ける。

※土砂災害などから避難する場合は、土砂の流れる方向に対し、直角に逃げるのが鉄則です。

※勝手な行動をとったり、独断で走ったりするとパニックが起こる。

②みんなと一緒に行動する。
③切れた電線などに近づかない。

●防災無線でお知らせ

市民への避難指示などは、防災無線で行います。強風などで、放送が聞き取りにくいときは、防災行政無線電話案内にお電話ください。

☎(322)9229

●避難場所を確認

近くの避難場所を、次のページで確認ましよう。

危険を感じたら早めに避難

土砂災害の前兆に注意

土石流の前兆

- ①木の裂ける音やゴロゴロと石が転がる音がする
- ②川の水が急に濁ったり、流木が交ざっている
- ③雨が降っているのに、川の水位が下がる



地滑りの前兆

- ①地面がひび割れ、一部が陥没したり、盛り上がった
- ②池の水位が急に変わる
- ③井戸の水が濁る



がけ崩れの前兆

- ①がけから小石がパラパラと落ちてくる
- ②がけに裂け目ができたり、斜面から水が噴き出したりする



早めの防災対策

地滑りやがけ崩れ、土石流などの災害は、大雨などが引き金となって発生し、一瞬のうちに、わたしたちの生命や財産を奪います。

市では防災訓練の実施など、防災体制の強化に取り組んでいます。しかし、最も有効な対策は、家庭や地域での身近な防災対策です。

普段から、一人ひとりが正しい防災知識を身に付け、地域内で協力体制をつくることがたいせつです。特にお年

寄りの避難など、迅速な行動がとれるよう対策を立てておく必要があります。被害を最小限に抑えるため、日ごろから、家庭や地域で次のような対策・準備を整えておきましよう。

●早めの浸水対策

屋根や窓、雨戸などからの浸水に備え、修理しておきます。また、排水溝などの掃除をし、雨水の逃げ道を確保しておきましよう。

●停電対策や非常品袋

まず非常品袋に、次の常備品を用意しておきます。これ

若手消防団員

もしものときは、役目を果たしたい

可也分団

佐藤 彰紘さん(23歳)



今年から、可也分団の自動車班として消防団に入団したての新入団員です。

消防団には、地元の先輩から勧められ、また、地元での順番もあり、入団しました。とはいえ、まだ、分からないこともたくさんあり勉強中です。

消防団は、地域のみなさんの生命と財産を守る役割があります。火災や風水害など、もしものときには、十分に役目を果たしたいと思っています。

地域のみなさんにも、日ごろから防災意識を持っていただき、地域の防災の代表である、私たち消防団を支えていただきますようお願いまします。

若手消防職員

消防団と連携して地域を守りたい

糸島市消防署

林田 健史さん(24歳)



消防署で働き始めて2年目の若手です。総員訓練の指導は、今回が初めてで、とても良い勉強になっています。

消防団は、とても頼りになる存在です。いくら技術的なものがあったとしても、消防署だけですべてを防ぐことはできません。消防団や地域のみなさんと連携をとりながら地域を守ることがたいせつです。

これから梅雨になり、大雨などが心配されます。昨年は、悲しい事故もありました。大雨に対する日ごろからの備えはもちろん、危険な日は外出を控えるなど、自分の身を守る備えも重要です。